

平成29年3月30日

広報資料
(市政同時)

京都市産業観光局
(観光MICE推進室 746-2255)
公益社団法人京都市観光協会
(プロジェクト推進課 213-1717)
公益財団法人京都文化交流
コンベンションビューロー
(国際観光コンベンション部 212-4145)

2016年(1-12月)及び2017年春節休暇期間中における 京都市内免税店売上状況調査結果について

京都市及び(公財)京都文化交流コンベンションビューローでは、外国人観光客の買物環境整備の一環として、免税店向け多言語電話通訳サービスの実施や市内免税店を紹介した冊子「Kyoto Tax-free Shopping Book」の発行など、免税店を支援する様々な取組を実施しております。

この度、平成28年(2016年)の年間(1-12月)及び平成29年(2017年)の春節休暇期間中(1月27日-2月2日)における免税売上状況調査を実施し、その結果がまとまりましたので、お知らせします。

【調査結果概要】

1 年間免税売上は続伸し、インバウンド消費が更に拡大(別紙P.1-6参照)

半数を超える57.6%の店舗が、「免税売上」が前年よりも「増えた」と回答し、インバウンドによる買物消費が引き続き伸長していることが明らかとなった。

なお、回答があった153店舗の年間免税売上総額が約104億円に達するなど、2年連続で約100億円の免税売上を達成している。

また、「免税件数」が前年よりも「増えた」と回答した店舗の割合が71.4%に達する一方で、1件当たりの免税売上を示す「免税売上単価(売上÷件数)」が「減った」と回答した店舗の割合は45.9%を占めた(「増えた」は29.1%)。

これは、中国での関税の強化や高額商品から消耗品への嗜好の変化、平成28年5月の一般物品の免税可能額が「10,001円以上」から「5,000円以上」に引き下げられた免税制度改正の影響等により、少額の免税売上が増加したものと考えられる。

2 観光土産店、百貨店・スーパー、伝統工芸品店の売上が堅調(別紙P.2参照)

業種別で「免税売上」が前年より「増えた」と回答した店舗は、観光土産店では約9割、百貨店・スーパー及び伝統工芸品店では約7割となるなど、他業種と比べて堅調に免税売上が推移している。

3 春節休暇期間中の免税売上も引き続き堅調に推移(別紙P.7-10参照)

春節休暇期間の「免税売上」と「免税件数」については、「増えた」及び「変わらない」と答えた店舗がそれぞれ68.3%、67.5%であり、春節休暇期間中の外国人観光客による消費効果は今年も引き続き維持されていることが分かった。

(参考)

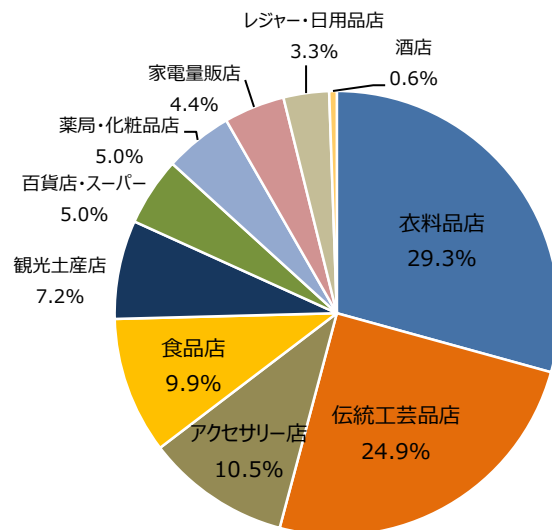
1 調査概要

調査目的：免税店における売上や外国人観光客の購買実態を把握し、今後の事業実施の参考とする。

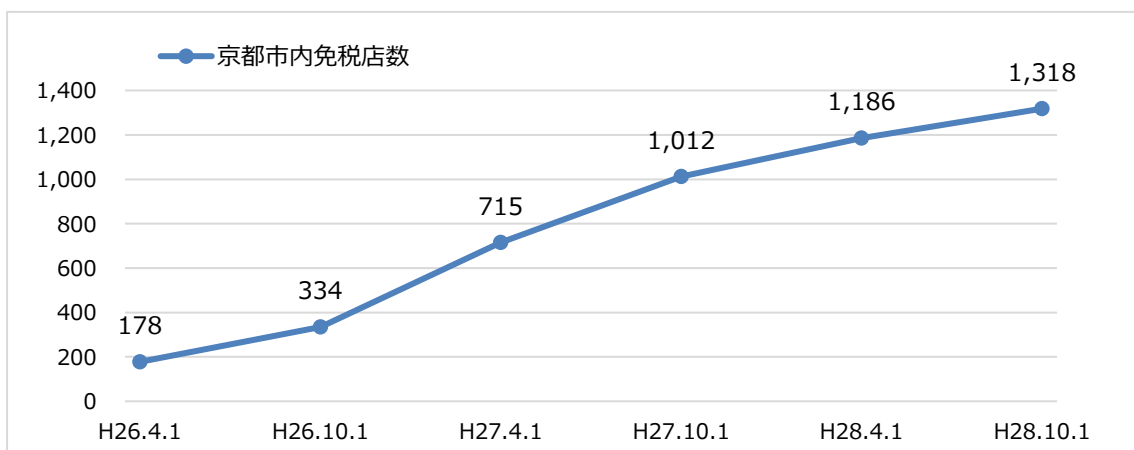
調査対象：免税店紹介冊子「Kyoto Tax-free Shopping Book 2016-2017」掲載の412店舗

回答店舗：181店舗（回収率43.9%）※設問により無回答も有り

■販売業種別



2 免税店数の推移



	H26.4.1	H26.10.1	H27.4.1	H27.10.1	H28.4.1	H28.10.1
全国免税店数	5,777	9,361	18,779	29,047	35,202	38,653

■この件に関するお問合せ先■

(公財) 京都文化交流コンベンションビューロー

インバウンド企画推進課 水上、桑田

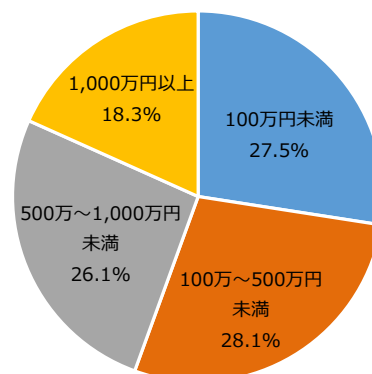
Tel:075-212-4145 メール:f-kuwada@hellokcb.or.jp

2016年（1-12月）及び2017年春節期間中における 京都市内免税店売上状況調査結果詳細

1 2016年の年間免税売上額について

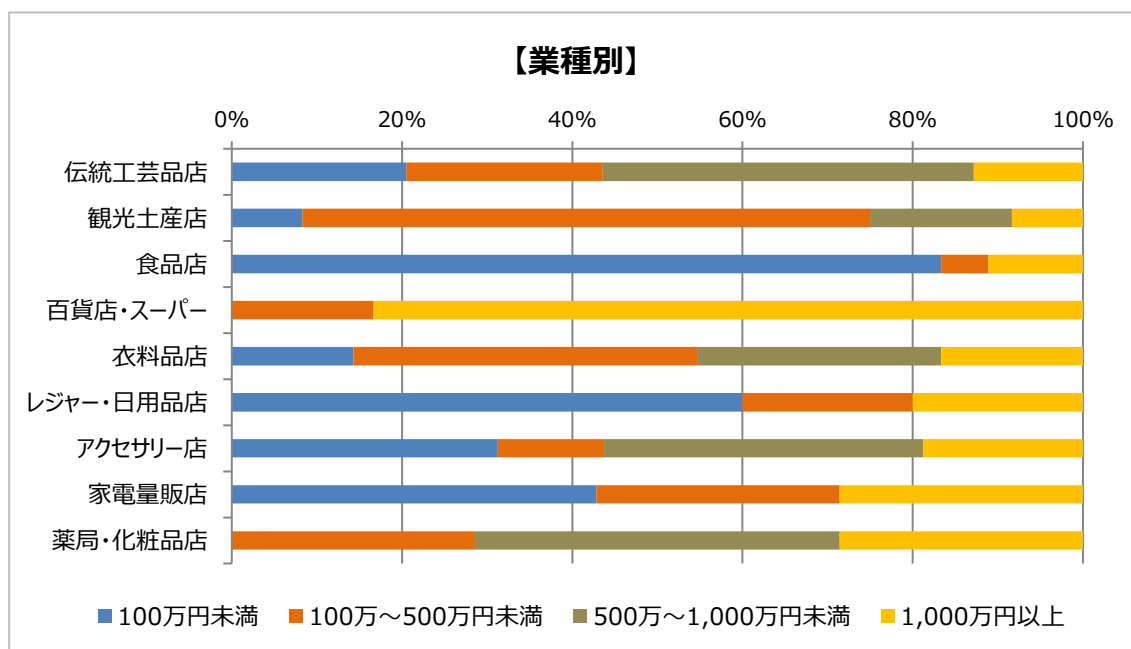
・年間1,000万円以上の免税売上があった店舗が、全体の18.3%を占め、約4割の店舗で500万円以上の免税売上があった。

【全体】



※免税売上額について回答があった153店舗の免税売上額を合算すると、**103億6,678万円**に達した。

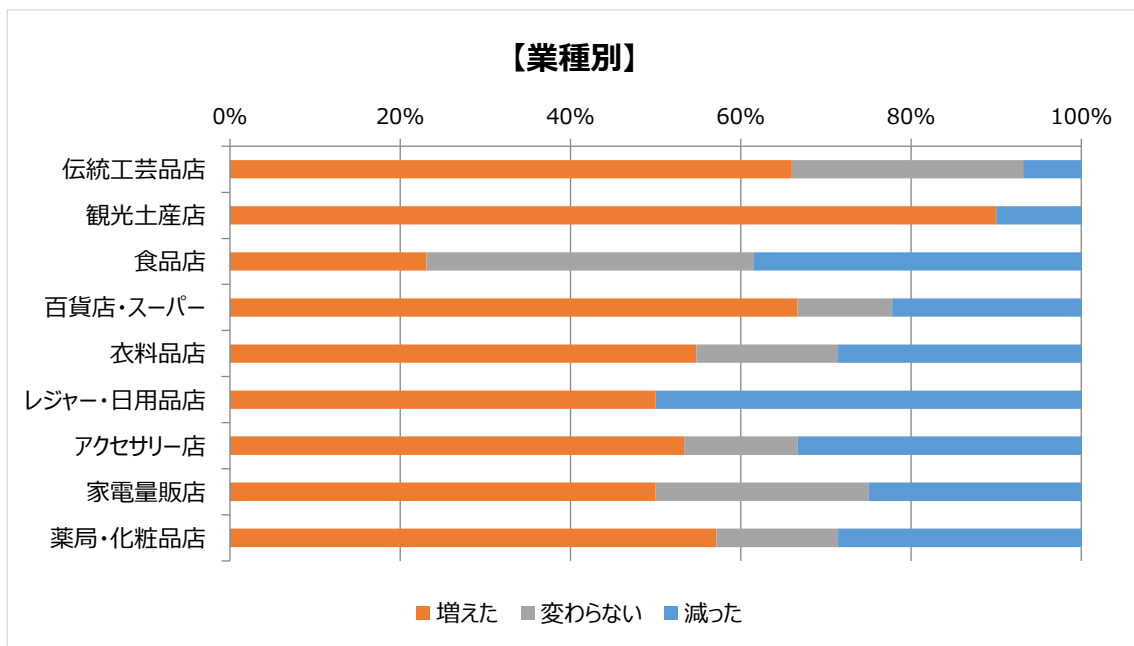
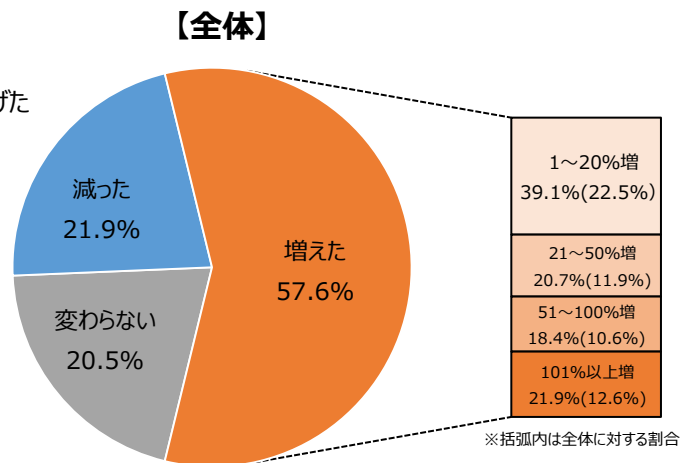
【業種別】



※酒店については有効回答が5店未満であったため、業種別分析から除外

2 2016年の年間免税売上額の前年比較について

- ・57.6%の店舗が、前年よりも免税売上が増えたと回答し、そのうち、前年の2倍超の免税売上を上げた店舗が21.9%を占めた。
- ・業種別にみると、観光土産店や百貨店・スーパー、伝統工芸品店で、増えたと回答した店舗の割合が6割を超えた。
- ・また、伝統工芸品店や観光土産店では、売上が減ったと回答した店舗の割合は約1割のみと、他業種に比べ低く、インバウンド消費が好調であることが確認された。

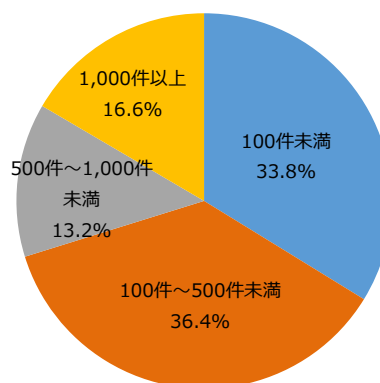


※酒店については有効回答が5店未満であったため、業種別分析から除外

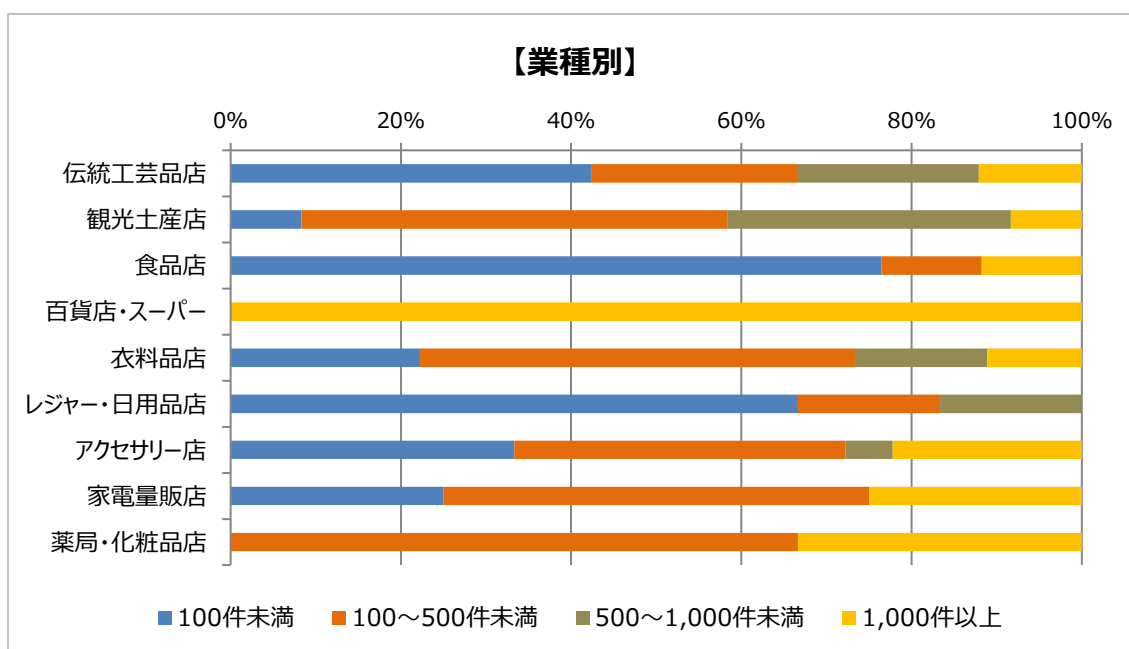
3 2016年の年間免税件数について

- ・免税件数が年間1,000件以上の店舗が全体の16.6%を占めた一方、100件未満の店舗も33.8%あった。
- ・業種別では、比較的規模が大きい百貨店・スーパーでは、すべての店舗で、1,000件以上の免税件数があった。
- ・食品店、レジャー・日用品店では100件未満の割合が半数を超えた。

【全体】



【業種別】

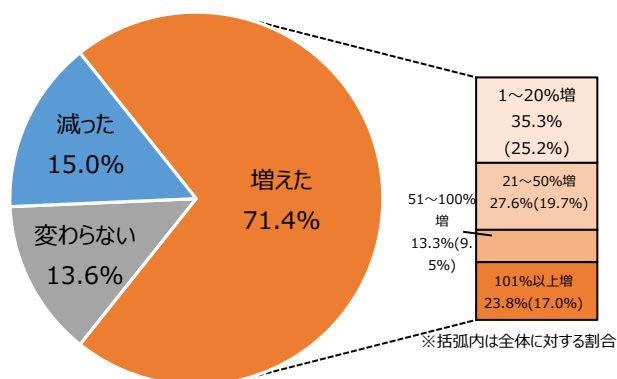


※酒店については有効回答が5店未満であったため、業種別分析から除外

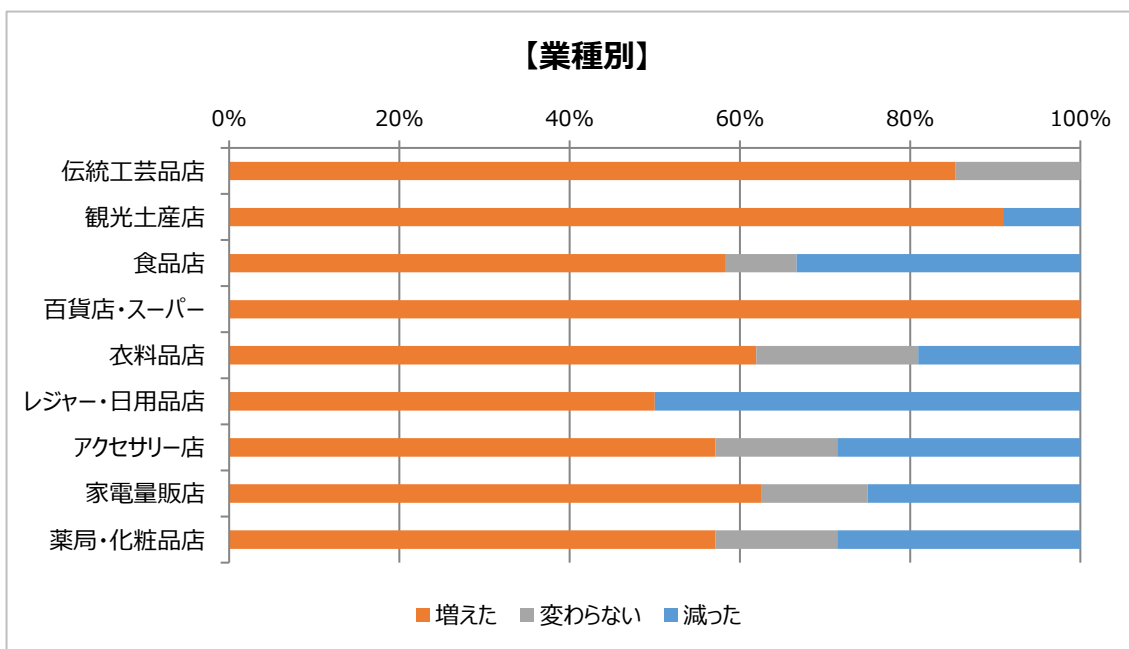
4 2016年の年間免税件数の前年比較について

【全体】

- ・免税件数が前年より増えたと回答した店舗が71.4%に達し、そのうち、前年の2倍超の免税件数をあげた店舗が23.8%を占めた。
- ・業種別では、百貨店・スーパーのすべての店舗で、また、観光土産店や伝統工芸品店の約8割超の店舗で免税件数が前年より増えたとの回答があった。



【業種別】

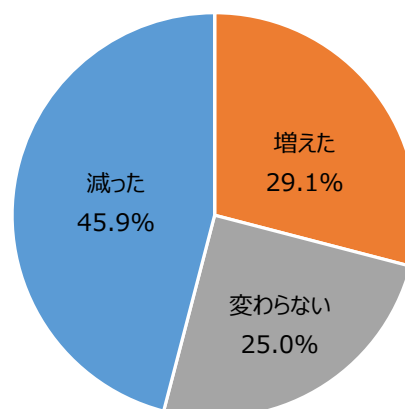


※酒店については有効回答が5店未満であったため、業種別分析から除外

5 2016年の免税売上単価の前年比較について

- ・1件当たりの免税売上（免税売上単価）が前年より減ったと回答した店舗が45.9%を占めた一方、増えたと回答した店舗も29.1%あった。
- ・業種別では、薬局・化粧品店とレジャー・日用品店で免税売上単価が増えたと回答した店舗の割合が約5割を占めた一方、免税売上単価が減ったと回答した割合が最も高かったのは、百貨店・スーパーで、6割を超えた。

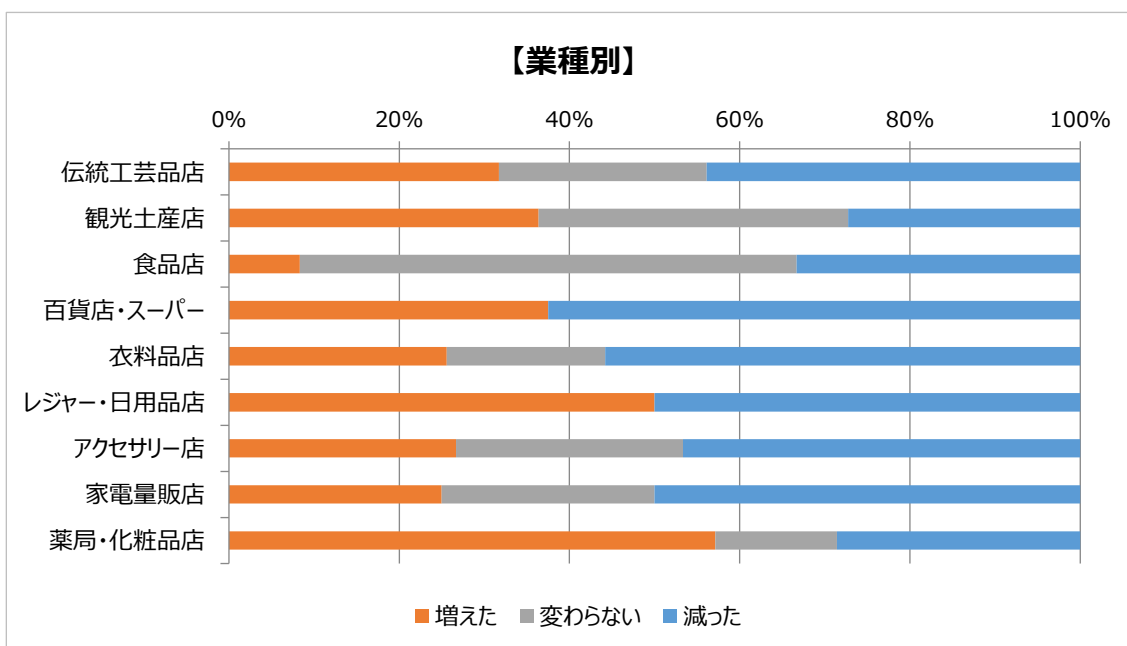
【全体】



■ 免税売上単価が減った原因として考えられるもの（店舗コメントより）

- ・免税対象額の引下げ
- ・高額商品から消耗品への嗜好の変化
- ・関税の強化（中国）
- ・越境 EC の普及（中国）
- ・景気の低迷（中国）

【業種別】



※酒店については有効回答が5店未満であったため、業種別分析から除外

6 免税売上における 国・地域別割合について

免税売上に占める国・地域割合では、中国が 65.5%と圧倒的に高く、次いで、台湾、香港の順となった。

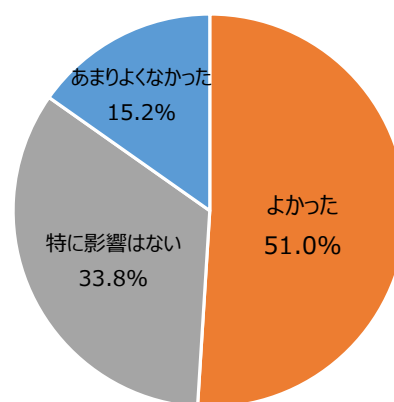
順位	国・地域	割合
1位	中国	65.5%
2位	台湾	13.4%
3位	香港	6.1%
4位	欧米豪	4.4%
5位	韓国	2.8%

7 2016年5月1日の免税制度の改正(※)の影響

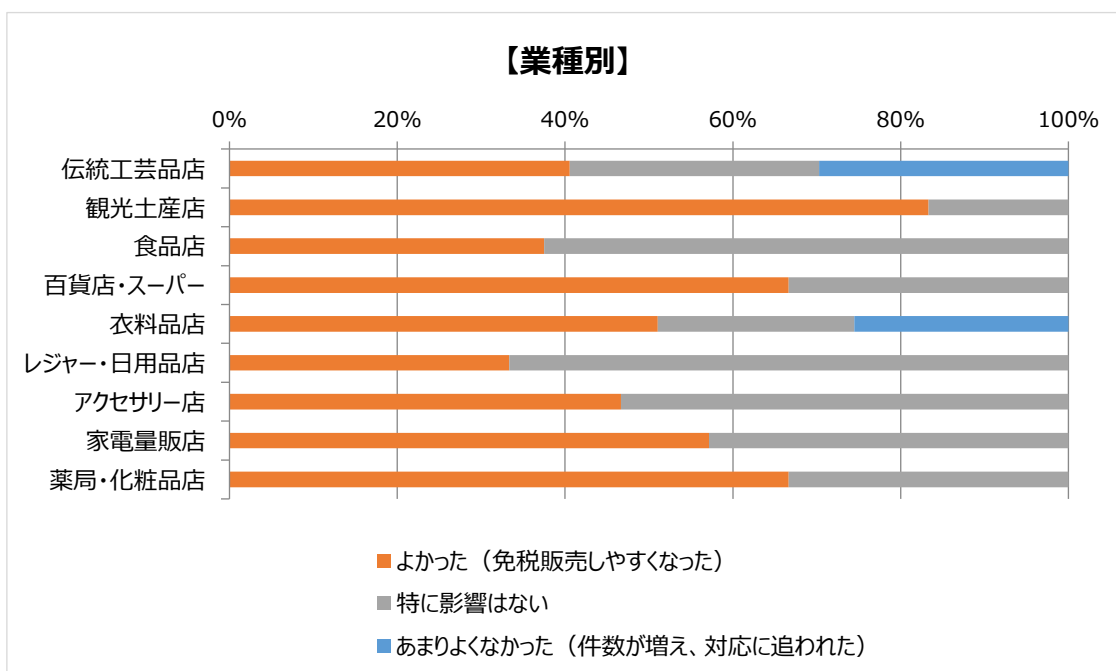
※ 免税可能額が一般物品について「10,001円以上」から「5,000円以上」、消耗品については「5,001円以上」から「5,000円以上」に減額

- ・免税可能額の引下げについて、よかった（販売しやすくなった）と答えた店舗が 51.0%と、約半数の店舗が減額の制度改正を好影響と受け止めていることが分かった。
- ・業種別では、観光土産店、薬局・化粧品店、百貨店・スーパーで、よかったと回答した店舗の割合が 6 割を超えた。

【全体】



【業種別】



※ 酒店については有効回答が 5 店未満であったため、業種別分析から除外

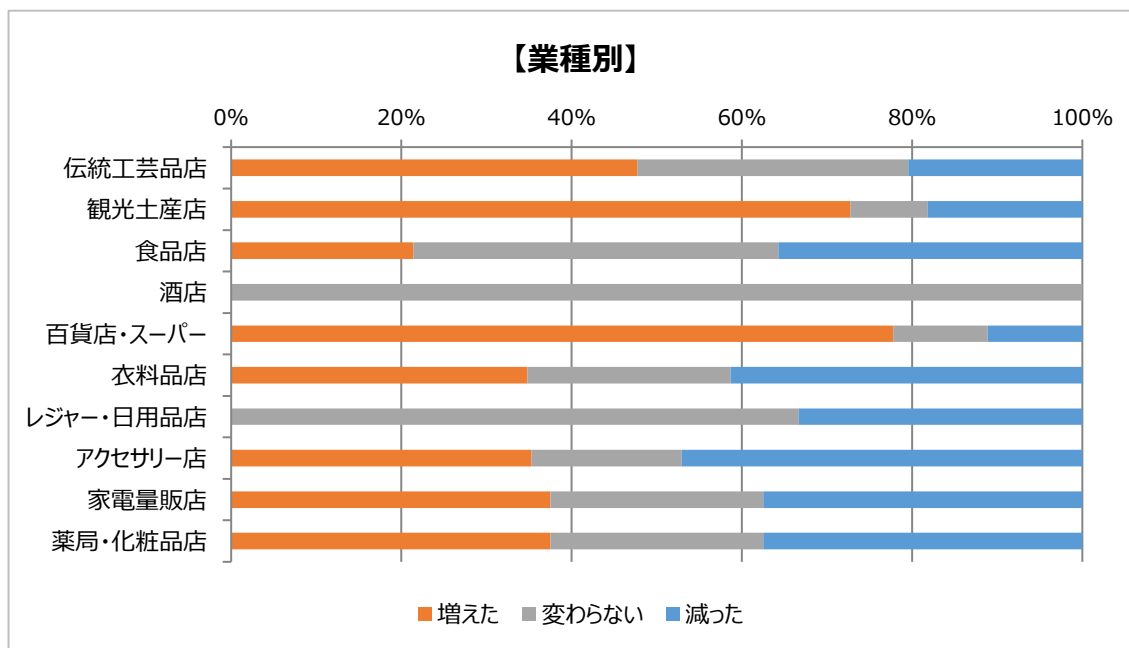
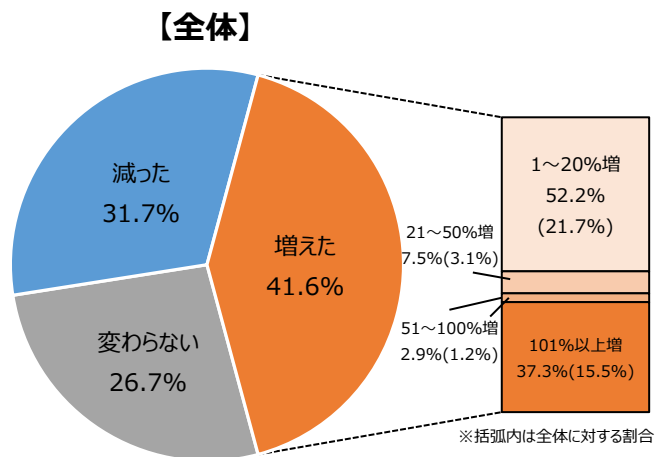
8 2017年春節の免税売上の前年比較について

※春節休暇

2016年：2月7日～13日

2017年：1月27日～2月2日

- ・今年の春節における免税売上が昨年より減ったと回答した店舗が31.7%あったのに対し、増えたと回答した店舗は約10ポイント多い、41.6%を占めた。
- ・業種別では、百貨店・スーパー、観光土産店で、免税売上が増えたと回答した店舗の割合が7割を超えた。

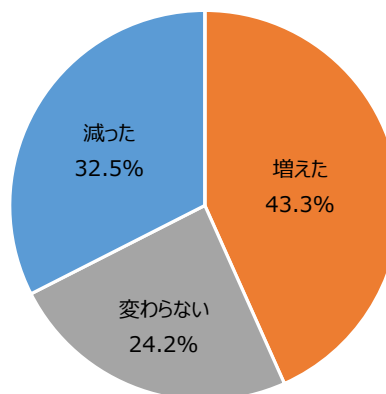


※酒店については有効回答が5店未満であったため、業種別分析から除外

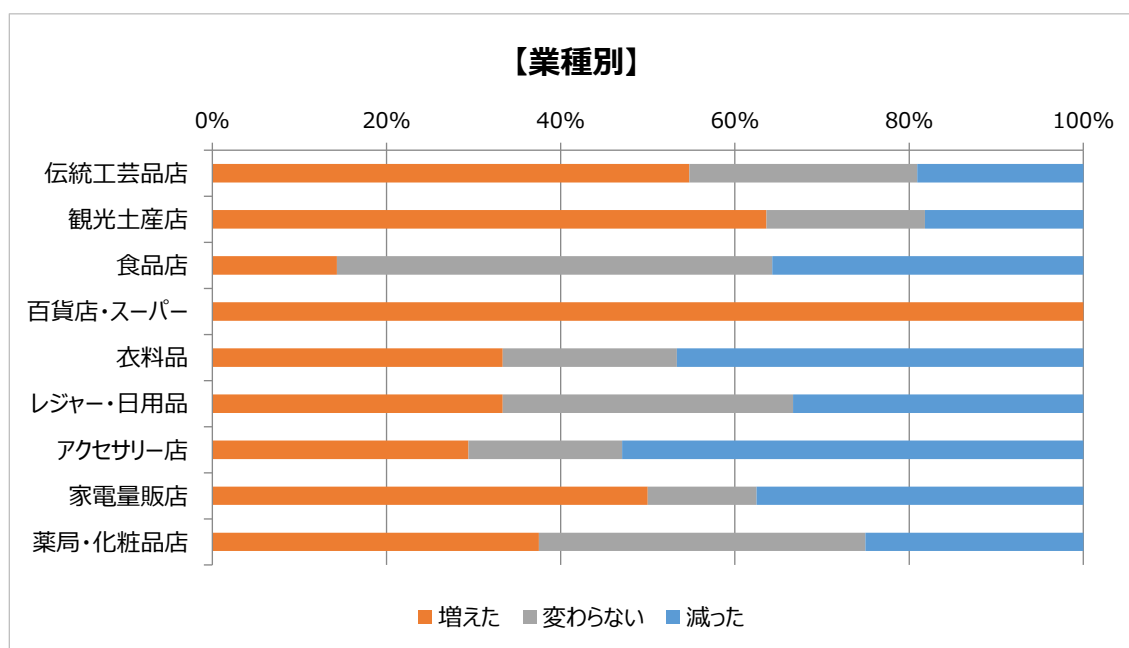
9 2017年春節の免税件数の前年比較について

- ・今年の春節における免税件数が前年より増えた及び変わらないと回答した店舗が半数を超える 67.5% あった。
- ・業種別では、百貨店・スーパーのすべての店舗で、免税件数が増えたと回答し、観光土産店や伝統工芸品店でも、その割合が5割を超えた。
- ・売上が減ったと答えた店舗の割合が最も高かったのは、アクセサリー店であった。

【全体】



【業種別】

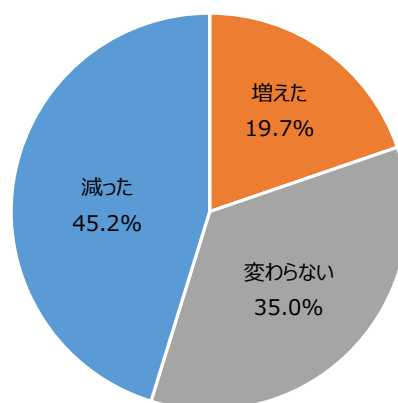


※酒店については有効回答が5店未満であったため、業種別分析から除外

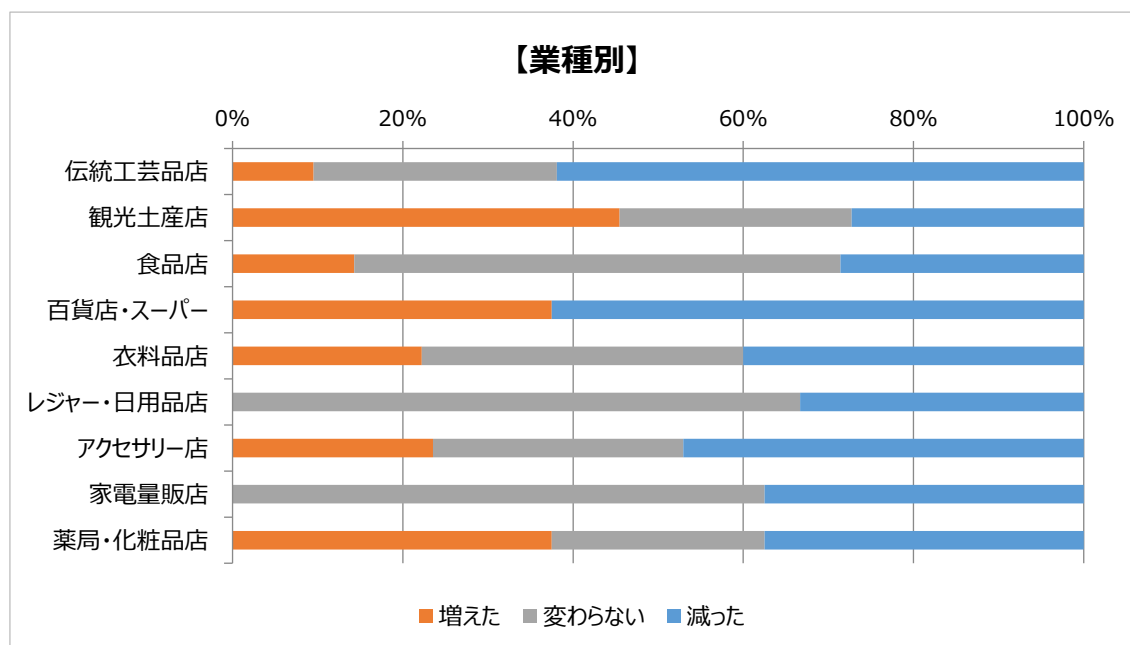
10 2017年春節の免税売上単価の前年比較について

- ・今年の春節における免税売上単価が前年より増えたと回答した店舗が19.7%であったのに対し、減った店舗は45.2%に達し、1件あたりの免税売上は減少傾向にあることが鮮明となった。
- ・業種別では、観光土産店において、免税売上単価が前年より増えたと回答した店舗が約5割あったのが特徴的であった。

【全体】



【業種別】



※酒店については有効回答が5店未満であったため、業種別分析から除外

11 2017年春節期間中のエピソード

■売上増に関するもの

- ・中国人観光客に日用品（歯ブラシ、歯磨き）が売れるようになった。（薬局・化粧品店）
- ・中国人観光客が1本23万円のウイスキーを2本購入し、売上や客単価が伸びた。（観光土産店）
- ・中国人観光客に日本酒が非常に人気。干支の置物も人気。（百貨店・スーパー）
- ・お箸の購入が昨年と比べ増えた。台湾人が家族用にと143膳分購入した。（伝統工芸品店）
- ・化粧品が大きく伸長、苦戦していた高額品も好調であった。（百貨店・スーパー）
- ・化粧水は大容量サイズよりも、通常サイズ（200ml）の方が人気。（衣料品店）
- ・日本国内で早急に使いたいという観光客が多かった。（レジャー・日用品店）
- ・中国人観光客に高額帯が売れるようになった。（衣料品店）
- ・目に見えて中国人団体客の通行や入店が増えた。免税について聞かれる率が多かった。（衣料品店）
- ・日本で婚約指輪を購入する、というお客様が増えたように感じる。（アクセサリー店）
- ・中国人中心に、日本の日常の生活圏に入って日常品購入している観光客が増加している。（食品店）
- ・昨年の春節にお越しの方（リピーター）がいた。（食品店） ※多数意見

■売上減に関するもの

- ・安価な商品、SALE品がよく売れた。（衣料品店） ※多数意見
- ・免税可能額に数百円届かない中国のお客様が、その数百円を追加するか非常に悩まれた。前年に比べると慎重さが増した印象。（伝統工芸品店） ※多数意見
- ・昨年は鉄瓶が売れたが、今年は全く売れなかった。（観光土産店） ※多数意見
- ・多人数で来店するが一人しか購入しない場合が多い。（家電量販店）
- ・高額商品は写真を撮るだけで買わない客が増えた。（観光土産店）
- ・Made in japan でないと売りにくい。（アクセサリー店）
- ・思ったより来店が少なかった。高額品が選ばれることが少なかった。（家電量販店）

■その他

- ・例年同様、春節の影響はほぼ感じなかった。（伝統工芸品店） ※多数意見
- ・春節期間よりも、春節直前や年末年始の方が来店が多かった。（伝統工芸品店）
- ・中国人のマナーがよくなった。日本人よりも良いと思うこともある。（食品店）
- ・英語で話しかけてくる中国人が多かった（家族や友人間でも英語）。（百貨店・スーパー）
- ・自社のイベント告知を添乗員に拡散してもらい、来店客がイベントを満喫されていた。（観光土産店）
- ・こちらから「新年好」と中国語で新年の挨拶をすると大変喜ばれた。（百貨店・スーパー）